



お話を伺いました方

三菱商事株式会社関西支社 総務部
広報・環境CSR推進チーム 環境・CSR担当 石原昌子 さん

日頃の担当業務	総務部広報・環境CSR推進チームのCSRに携わる。 主な担当業務は森林保全活動。 ・「九十九の森」【植樹】 社内森林保全ボランティア活動事務局 ・「三菱商事千年の森（通称：彌太郎の森）」【間伐】 社内森林保全ボランティア活動事務局
モットー	一期一会
趣味	ガーデニング、ファブリックパネル作り
休日の過ごし方	家具・雑貨屋巡り

三菱商事株式会社におけるCSR活動

御社のCSR活動で、特に力を入れておられる分野は何ですか。

弊社では事業活動を通じて社会的価値・環境的価値を創出していくことが環境・CSR経営の最重要課題と捉えています。事業活動においての重要性の高い環境・CSR分野の課題を特定し、各部門・営業グループ毎に重点課題を整理しています。（下記HPのアンニュアルレポート P90-101 ご参照）

また、国際貢献・社会貢献活動にも力をいれており、「地球環境」「福祉」「教育」「文化・芸術」

「国際交流」の分野を中心に、世界各地で社会貢献活動を実施するほか、大規模災害の被災地に対する緊急支援を実施しています。

また、社員のボランティア活動を推奨しており、ボランティア休暇制度の導入やボランティアプログラムを提供するなど社員が取り組みやすい環境づくりを行っています。

アンニュアルレポート
<http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/ir/library/ar/e-book/ar2011/>

社会貢献活動
<http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/csr/contribution/>

力を入れている分野では、具体的にどのような取り組みを行っておられますか。

弊社で力を入れている分野のひとつとして、森林とサンゴ礁に関する環境保全型社会貢献活動があげられます。森林については、海外ではマレーシアで1990年より「熱帯林再生実験プロジェクト」を開始、密植混植する植樹方法を採用し、短期間に限りなく自然生態系に近い森林の再生を目指しています。

社員等によるマレーシアへのエコツアーを実施していますが、植樹のみならず、オランウータン保護施設の見学や現地大学・ボランティアの方々との交流もあり、参加者からは「環境問題について改めて考えるきっかけになった」「植えた苗木が育っていく姿を見て感激した」という感想をいただいています。

実験を開始して以来おおよそ20年が経過し、実験林にはもともと生息していた鳥や虫たちが戻ってきています。

昨年の植樹祭には沢山のマレーシアの子供たちが参加してくれました。未来を担う子供たちが、苗を植えることを楽しみ、環境や森林の大切さを考えるきっかけにもなっています。



また、同様の植樹方法はブラジル・ケニア・中国でも実施しています。国内では、高知県安芸市に社有林を所有し、地域の自治体と共に森林保全活動に取り組んでいます。

今年は東日本大震災の被災地への社会貢献活動に

注力しており、環境分野でも被災地での森林保全活動を予定しています。



その取り組みの成果、また社内での反応はいかがですか。

森林保全活動には社員等がボランティアとして参加しています。環境保全と社員の環境への意識の向上にも役立つ活動と思料しています。

今年（平成23年）は、国連が定めた国際森林年であることから、より多くの方に森林保全の大切さを知ってもらいたいと思い、このリレーエッセイを始めました。石原さんは、CSR活動以外の場面で森林や山に親しんだ経験はお持ちですか。

かつて、鳥取県の国立公園・大山の裾野に会社の厚生施設がありまして、長年に亘り、家族ぐるみで、毎年のように夏も冬も訪れていました。

大山は、「伯耆富士」と呼ばれるように、裾野は西日本最大のブナの樹海で、周辺一帯を白ブナの大木が包み込んでいるのですが、その規模は、世界遺産の白神山地に匹敵すると言われています。

それから、十数年前になりますが、ボルネオ島を訪れました。世界有数の生物多様性を誇る熱帯雨林が広がります。北東部を流れる、野生動物の宝庫であるキナバタンガン川流域。最高の思い出となったスカウでのリバークルーズでは、ボルネ

オ島固有種のテングザルにも出会うことができました。現在、下流域一帯はサンクチュアリに指定され、また、残された森を守るための活動や植林などが行われ、エコツアーの拠点となっています。

大阪での森づくり活動

アドプトフォレストに参加されたきっかけを教えてください。

昨年度初め、関西支社では社員参加型環境保全活動の一環として、自治体との協働による森づくりをスタートさせることとなりました。まず、地元大阪の森林再生の一助となることを目指して、大阪府のアドプトフォレスト制度への参画を表明しました。

その結果、今回縁あって八尾市黒谷地区でのコーディネートが整ったという訳です。

アドプトフォレストに対する、社内での評判はいかがですか。

協働の森の名称については、社内ネーミングコンペを実施したところ反響が大きく、多数の応募があったなか、三菱創業者 岩崎彌太郎が大阪の地で興した「九十九商会」に因んだ「九十九の森」に決まりました。

社内では、大阪府が仲介者となっている森づくりの仕組みにも関心が集まり、第一回目の植樹活動は好調な滑り出しとなりました。



アドプトフォレストの成果や、活動に取り組んで良かったと思える点は何ですか。

植樹活動の参加者から、自分達が汗を流して植えたヤマザクラやヤマボウシが、信貴山麓を美しく彩ることに貢献するので、労も癒えました、との意見がありました。

また、当日は、社員だけでなく、分社・事業投資先からも参加があり、共同作業を通じてお互い親睦を図る貴重な機会となった、との意見もありました。

森づくりを進めていく上では、長期的な視点が大切ですが、長期間モチベーションを維持するためのポイントはどのような点だと思われますか。

三菱商事には創業以来の企業理念である「三綱領」があります。

三綱領は、常にフェアな態度を貫き、社会や環境と共生する視点を持ちながら、世界と人類の未来に貢献するビジネスを展開していくことを謳っており、なかでも「所期奉公」は、自らが社会的責任を果たす上での拠り所となっており、社員のモチベーションの礎となっていると思います。

- ・「所期奉公」事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する。
- ・「处事光明」公明正大で品格ある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する。
- ・「立業貿易」全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る。

社内でボランティア活動等に対し、何らかの活動支援制度を設けておられれば、その内容を教えてください。

弊社では、社員一人ひとりが社会貢献に対する意識を高めていくことが重要と考え、社員のボランティア活動への参加を促すさまざまな取り組みを進めています。

例えば、年間最長 5 日間のボランティア休暇が取得できる制度や、昼休みなどを利用して社員が気軽に参加できる社内プログラムを定期的に開催しています。

また、「トークン制度」というものがあります。トークンという仮想通貨を設け、社員がボランティア活動に 1 回参加する毎に 1 トークンをカウントし(1 トークン=500 円)、年間の合計金額を、会社が福祉、教育、環境関連の NPO や財団に寄付する仕組みです。

寄付先は、社員へのアンケート結果によりテーマを絞り、支援先を選定します。2010 年度分の寄付先は、東日本大震災復興支援活動への寄付となりました。

トークンは、会社が指定するボランティアだけではなく、地域のサッカースクールなどのコーチなど、社員の自発的な活動でも取得可能としています。

また、トークン制度とは別に、「ボランティアカード」の配付があります。

これは、三菱商事自主企画のボランティアに参加すると、ボランティアシールが 1 枚配付され、これをカードに貼って集めるものです。5 枚貼り終わると、支社の担当が集め、本店のボランティア事務局へ送付します。

これは、世界の子どもたちへの支援金に換算し、活用します。2010 年度の寄付先は、カンボジア、タイの子どもたちへの奨学金、アジアの子どもたちに対するポリオワクチンでした。

これからの森づくり・アドプトフォレスト活動に対する思いをお聞かせください。

三菱商事株式会社さまでは、企業理念である「三綱領」を活動の糧とし、事業活動を通じて様々な社会貢献活動を実施しておられます。

社としての活動のみならず、「ボランティア休暇」や「トークン制度」など、社員の皆さまの自発的な活動を支える仕組みが整えられているところに、取り組みへの積極性が感じられました。由緒ある名所を冠した「九十九の森」が、地域に親しまれる立派な森となる日が楽しみです。

インタビュアー

大阪府 みどり・都市環境室 みどり推進課 森づくり支援グループ 上中 理恵子

本活動の取り組みには、大阪府、八尾市の皆さまは勿論のこと、NPO 法人日本森林ボランティア協会のご協力がなければ、到底成り立ちません。今後もより綿密に連携をとらせて頂き、「九十九の森」をしっかり育てていきたいと思っております。



最後に、大阪府アドプトフォレスト制度や森づくり活動全般に対するご意見・ご要望があればお願い致します。

活動を通じ、森づくりだけでなく、地元の方々との交流も進めたいと考えております。

次回活動では、八尾市黒谷に鎮座されている熊野権現社(くまのごんげんしゃ)に行き、地元の方にも参りたいと思います。

今後は、アドプトフォレスト制度活動協定を結んだ森林所有者の方々だけではなく、森づくり活動を通じて、地元への貢献、地元の方々との交流(黒谷地区、教興寺地区)についてもご調整をいただけましたら幸いです。